

ひるがの白山神社改修工事について

令和 7 年 9 月 13 日、ひるがの白山神社再建落成記念の祭が開催された。

ひるがの地区は戦後の開拓で出来た新しい集落のため神社がなかった。故福手豊丸氏は「昭和 30 年頃御母衣ダム建設によって水没する白川村福島集落にある神社が拝領できるとのニュースが入ったので、代表 3 人が参上し、交渉に当たった。しかし移転費及び毎年のお祭りの開催費等が相当かかるということで地区に戻り相談の結果、ひるがの地区としては不可能であるとの結論に達し、お断りをした。



ひるがの白山神社境内



ひるがの白山神社鳥居

次に庄川村の尾神郷の集落も水没するため同様の情報が入ったので早速拝見に行った。尾神郷は 30 数戸の小集落で神殿も小規模で、村づくりをはじめたばかりのひるがのの集落には最適と思われたので、即座に拝領することにした。

(以上福手豊丸氏の『回想ひるがの』より)

神殿：間口、奥行き共に 1.5m

祭神：昭和 33 年 12 月 8 日に長滝白山神社より伊弉諾尊、伊弉冉尊、菊理姫命を奉遷した。

拝殿：昭和 45 年鮎走白山神社より旧拝殿、その後同神社より鞘堂材の提供も受ける。



ひるがの白山神社神殿



ひるがの白山神社拝殿

令和 6 年になって神殿、拝殿の老朽化が進んだために予算 37300 千円で改修工事を行い、このたび竣工式を行った。

なお、9 月 13 日の式の後、練り行列、餅投げ、獅子舞 50 周年記念奉納が行われた。

ひるがの白山神社例祭の大神楽



ひるがのの獅子舞は、獅子頭の前で、花取りという子役が獅子と掛け合いながら舞う。これは加賀獅子の流れをくみ、特に富山地方の氷見獅子が荘川水系を遡りその上流部落に伝えられた。また、獅子だけで舞う「飛び獅子」「へんび取り」「しらみ取り」などは飛騨地方から入ってきたものといわれている。

この荘川水系の獅子舞は、平家の落人がはじめたという俗説がある。「京ぶり」「京かぶり」等の舞は、落人が都を忍んで舞ったと云われている。もう一説は加賀百万石の前田家は外様大名であったのでいつ取り潰しにあうか分からず農民に武装させる意味で勇壮な獅子舞を奨励したという説である。

勢揃いした花取りと獅子（令和 7 年 9 月 15 日撮影）



油単をかぶって舞う獅子（令和 7 年 9 月 15 日撮影）

昭和 50 年、村づくりの活動を目的として組織された「野郎会」と和田繕長氏が、水没のために四散した元尾神郷の氏子達を尋ねて、獅子舞の技を覚えている代表の方に会った。野郎会の代表 6 人は岐阜市へ十何回も通い、数ある獅子舞のうち主なものを習い覚えて 9 月 16 日の例祭に奉納した。

伝承された獅子舞の種類は、「宮参り」「吉崎」「京ぶり」「京かぶり」「飛び獅子」「金吾獅子」「宮下り」である。



花取りと獅子の宮参り



京ぶりを舞う花取りと獅子（平成 26 年 9 月 16 日撮影）

（参考文献：福手豊丸『回想ひるがの』、和田繕長『ひるがの白山神社獅子舞』）
（写真協力：山下静美）